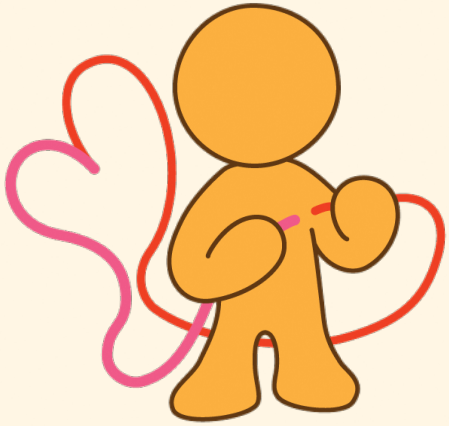
おかえり

子ども
第三の
居場所

テトテ
tetote
～ つなぐん家 ～

一般社団法人つなぐプロジェクト



つなぐプロジェクト概要

2017年　地域組織との調整・連携を図り、誰もが支え合える地域をつくることを目的に活動するため任意団体「つなぐプロジェクト」を設立

2017年　鳥取県と鳥取大学医学部附属病院小児在宅支援センターと連携し鳥取県小児在宅支援者ネットワークを構築

2017年　日本財団助成事業　ICTを活用した遠隔学習支援事業を開始

2018年　日本財団助成事業　ICTを活用した遠隔学習支援事業継続

2019年　ICTを活用した遠隔学習支援事業が県事業として認められ、そのサポートを任される

2021年　一般社団法人つなぐプロジェクトを設立

【法人設立の背景】

病気や障がいを持つ方やその家族のサポート事業を行ってきた中、行政を含めた支援者のネットワークのつながりの中で「子どもが抱える課題」が大きくなりつつあり、その手助けをして欲しいとの依頼があった。しかしながら、任意団体の持つ力だけでは解決できない課題（収益性、継続性、社会への影響力の弱さなど）があるため、法人化し収益事業を行い支援の継続を図り、つなぐプロジェクトの強みである地域組織との連携力とIT技術を活かし、子どもがその子らしく未来に向けて、生きる力を養える環境を提供するとともに、病気や障がいのある方や社会とのつながりを持つことが困難な方が、経済的自立を目指すほか、その人らしく生きることができるようサポートすることとした。

日本財団 2022年度「子ども第三の居場所」事業コミュニティモデルの採択を受け

日本財団×米子市×つなぐプロジェクト

の三者協定により、つなぐプロジェクトは日本財団から財政支援を受け、子ども第三の居場所を運営。
協定に基づき、米子市と連携をおこない子ども達の支援を行います。

子どもへの投資が日本の将来を決める

日本財団の試算※によると、子どもの貧困を放置すると経済損失は約40兆円に達し、政府の財政負担は約16兆円増加します。貧困などの子どもたちの直面する困難は決して他人事ではなく、国民一人ひとりの将来に影響する「自分事」であり、この解決を図ることは極めて重要な将来への投資です。

※日本財団（2015年）「子どもの貧困の社会的損失推計」レポート

子ども第三の居場所

5つの機会

「子ども第三の居場所」では、子どもたちの生き抜く力を育むため5つの機会を提供しています。

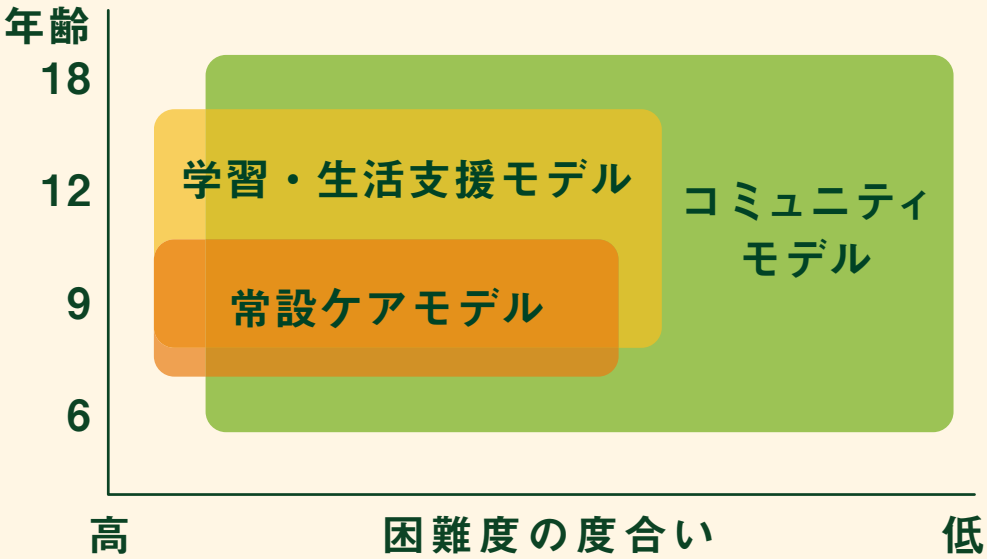
安心
子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、居心地のよい環境づくりに努めています。「ここに居ていいんだ」と思ってもらえるよう、まずは子どもたちのありのままを受け入れることから始めています。

食事
毎日栄養バランスを考慮した温かい食事を無料で提供しています。子どもたちの健康を支えると共に、準備や片付け等も子どもたちと行うことで、食の大切さ、みんなで食事することの楽しさを伝えています。

生活習慣
子どもの中には、基本的な生活習慣が身についていないケースもみられます。食事、着替え、入浴、歯磨き、挨拶等の基礎的な生活習慣を整えます。また、友達や大人との関わり方を学び、社会性を培っています。

学習
学習習慣が定着するよう、毎日スタッフによる宿題指導を行なっています。分からないところまで遡った学習支援に加え、座っていられない等の課題がある子どもは情操面や発達障害の可能性も考慮して支援します。

体験
旅行、キャンプ、料理、音楽・プログラミング等の教室を通して、チャレンジ精神、自己肯定感、主体性、対人コミュニケーション等、「非認知能力」を育みます。



世帯の課題

虐待・ネグレクト・不登校・発達障害・ひとり親・共働き孤立・生活保護世帯・就学援助世帯

3つのモデル

常設ケアモデル

課題を抱えた小学生低学年の子どもを中心に、手厚い支援

学習・生活支援モデル

小学生低学年～中・高生への学習支援と生活習慣定着支援

コミュニティモデル

子ども・高齢者・ママなど多世代交差拠点。課題を考える子どもの早期発見。

子ども第三の居場所とは

「子ども第三の居場所」は、すべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、日本財団が中心となって2016年より全国に開設しています。「子ども第三の居場所」では、特にひとり親世帯や親の共働きによる孤立や孤食、発達の特性による学習や生活上の困難、経済的理由による機会の喪失など、各々の置かれている状況により困難に直面している子どもたちを対象に放課後の居場所を提供し、食事、学習習慣・生活習慣の定着、体験機会を提供しています。同時に、学校や地域、専門機関と連携し、「誰一人取り残されない地域子育てコミュニティ」のハブとしての機能を担っていきます。現在全国に135ヶ所設置され、2025年度までに全国500拠点の開設を目指しています。（2022年10月現在）

https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child-third-place

te to te ～つなぐん家～はコミュニティモデル

大人社会が複雑化すると同時に子ども社会も複雑化しています。たくさんの悩みを抱え、上手くはきだす方法がわからない子どもが増えているのが現状です。その結果、不登校、ひきこもり、自殺、発達障がいのような症状が出てしまっている子ども。また、貧困、ヤングケアラー、ネグレクト。
今悩み苦しんでいる子どもが増えています。子ども達は大人に向けSOSを発信しています。

ただそんな子どもたちの課題を、ピンポイントで救い上げていくのは非常に難しいのが実状です。なぜなら、現代の子どもたちの課題には、顕在的に見えやすいものもあれば、潜在的に見えにくいものも多いからです。

子ども達の拠点である te to te ～つなぐん家～は、どの子も気軽に立ち寄れる場所で、地域の方々との触れ合いを通じて人と関わる力や自己肯定感を育むと同時に課題を抱える子どもの早期発見や見守りを行います。そして子ども達が自立できる力を養う場所です。

te to te ～つなぐん家～はコミュニティモデル

開所日　：毎週月曜～金曜日

時　間　：朝 9:00 ～ 夜 8:00

対　象　：小学生～高校生（会員登録が必要）

1日利用　：440円
1食　　：220円
（減免制度あり。減免対象者の1日の利用人数は15名まで）

ご案内　：500円（１回）
乳幼児と保護者の方が一緒に遊ぶ場としてご利用いただけます

te to te ～つなぐん家～の取り組みをご紹介

Point 1 _子ども達へのサポートは４つの柱

1. その子のそのままを受け止め、様々な夢を持つ力を培い「将来◯◯になりたい」と目標を持てるようサポートする
2. 空間を木質化することにより、自分達が置かれている室内空間をヒントに木の与える効果、自然環境について考える力、鳥取県を支える産業を守ることなど子ども達の五感を刺激し、社会や地球環境の改善に目を向けられるようサポートする
3. 食事を共に作り食べる事により、「食べる事」「食材を作る人」「マナー」「食品ロス」など「食」を通じて様々なことを学び教えあい、考える力を養えるようサポートする。
4. 生活面や経済面において自立できる力を養えるようにサポートする

いわば、子ども食堂の大きい版をイメージしていただけるとわかりやすいかもしれません。
これらの４つの柱を大切にその子らしく成長できるようサポートいたします。

Point２_つなぐチャイルドサポートシステムの構築
～日本財団×米子市×つなぐプロジェクト三者共同開発～

・子どもの居場所にやってくる子どもたちの外見や表情、仕草、聞き取りなどから置かれている状況のアセスメントを行い、システムから行政への相談・通告の必要性を喚起することで、機会を逃すことなく、子どもの安全・安心の確保と様々な支援につないでいきます。
・子どものかかりつけ医などと情報を交換することにより、一人一人にあったサポートの提供につないでいきます。
・子どもたちの気になった点について、どのような視点で、どのような取組みを行いどのような変化が現れたのかを記録していくことで、対応事例をライブラリー化し子どもたちへの対応にシステム利用者が活用していきます。
（システム利用者：自治体、医療機関、教育機関、子どもの居場所や子どもを預かる場所）

・今後の予定
2022年度　te to te ～つなぐん家～にてテスト運用
2023年度　米子市協力のもと子どもの居場所や子どもを預かる場所でテスト運用、精度UP
2024年度　県事業化を目指す
2025年度　全国の「子ども第三の居場所」並びに自治体での活用を目指す

※別添資料あり

Point 3 _地域企業との連携

角盤町商店街振興組合のお力添えのもと子ども第三の居場所の必要性を地域企業の皆様がご理解くださり、あらゆる業種の方々が施設開所前から「子ども達のために」の志を掲げ、子ども第三の居場所 te to te ～つなぐん家～の維持継続のために様々なご支援を頂戴しております。
今後もあらゆる方向性から支援できるよう、アイデアを出し合い実行に向けた活動の輪が広がりつつあります。

EnJoin 1F

EnJoin 2F

Jobs

※イラストは設計中のデザインイメージです

特徴

空間木質化

子ども達は木のもたらすリラックス効果により、緊張が和らぎ、木のおもちゃで遊んだり、木の空間の中で学習したり読書をすることで、集中力が高まります。また、地域の方との交流を通じて人との関わる力や自己肯定感を育むことができます。そして、子ども達と触れ合い関わることで、子ども達の抱える課題の早期発見にもつながります。

コンセプトは
「縁×遊」＋「丸×いやし」

人と人の縁からはじまる
子ども達が一緒に遊んだり
それぞれの時間を過ごす場
丸は優しさ、人の輪
誰もがいやされるそんな空間

【１階は遊び場】

子ども達がワクワクするようなおもちゃを用意しております。
用意しているおもちゃは木のおもちゃを中心としていて、安来市にある木工製作所「Ton ton」がメンテナンスなどをサポート。
ボードゲームなども取り揃え、子ども同士で協力しあったり、教えあったり、子ども同士の交流が培われるスポットです。また、地域の方と一緒に遊んだり、褒められたりしながら、多世代とのコミュニケーションや、人と関わる力や自己肯定感を育むこともできます。
ベビーTOYもご用意しておりますので、乳幼児と保護者の方が一緒に遊べる場としてもご利用いただけます。

コンセプトは
「円×図書」＋「団×食」

円はかけたところがない、
また、過不足なく十分ということ
本を読んだり、学習をして、
それぞれの思う知識を満たしていく場
te to te ～つなぐん家～に来る誰もが
ほっとできるように
みんなでお茶を飲みながらお話ししたり、
一緒にご飯を食べる
だんらんできるそんな空間

【２階は家庭のリビングのような場所】

ボランティアのお兄さんに勉強を教えてもらったり、友達同志で教えあったり。
地域の方に本を読んでもらったり。みんなでワイワイと楽しく過ごせる場です。
そして、キッチンでは一緒に楽しくおやつを作ることもできます。夕方にはスタッフと子ども達が今日は何にする？と相談しあって、冷蔵庫にある食材を生かし、栄養のバランスを考えながら夕食を作ったり、地域の方と一緒に郷土料理を作るなど食の大切さを学ぶことができる場でもあります。
もちろん、乳幼児と保護者の方が遊びにこられた時は、ミルクを作っていただくこともできます。
また、イベントを行うなど色々な形で活用できる多様性を持った空間です。

コンセプトは
「学び×仕事」

３Fはプログラミング教室
コンピューターサイエンスが学べる場
コンピューターサイエンスを学ぶことで、
プログラマーやシステムエンジニアなど
今、世界的に人材不足とされている
職業につくことも可能
「不可能を可能へ」
そんな一歩を踏み出せる空間

【３階は学び×可能性を広げられる場所】

緑を基調にした落ち着いた空間です。
本を読んだり、集中して勉強に取り組める静かな場所です。
情報教育の環境も整っていて、プログラマーに教えてもらうこともできます。

ゆくゆくは、プログラミング教室としての発展を考えており、プログラムを一から学べることはもちろん、プログラマーとして自立できることを目標としたサポートの充実を図ります。

最後に

今、子ども達の抱えている悩みは複雑化しています。そして愛情を必要としています。
自分を認めてくれる人を求めています。

どの子もその子らしく子ども時代を過ごすためには、私共だけの力だけでは難しく、何よりも地域の皆様のお力添えが必要です。

te to te ～つなぐん家～の子ども達には、気軽に「おはよう」「こんにちは」とお声がけいただけると嬉しいです。

昭和にあった地域のコミュニティのように、米子市中心市街地だからこそできる、令和時代地域コミュニティを皆様と共に作り、子ども達をみんなで一緒に大切に育てていきたいと考えています。

子ども達が「やっぱり鳥取が好き」と思える地域であったらいいな。
そして、いつか te to te ～つなぐん家～を卒業した子ども達が、この地域で活躍できることを願っています。

鳥取県の次世代の担い手となる子ども達を一緒に応援いただけると幸いです。

これからも子ども達への応援を
どうぞ、よろしくお願いいたします。